

さいたまがく



主な内容

各支部より・事業部より
大会を振り返って
令和4年度優秀指揮者表彰

第46回全日本アンサンブルコンテスト
2023年3月19日 静岡県・アクティシティ浜松
朝霞市立朝霞第一中学校 打楽器六重奏 金賞

会長・理事長 ご挨拶



埼玉県吹奏楽連盟
会長
吉里 達哉

『令和4年度を振り返り 令和5年度へ』

県内各地において、桜の花が咲き誇り、私たちの心に優雅さと新たな決意を持たせ、令和5年度が始まりました。埼玉県吹奏楽連盟所属の皆様におかれましては、益々御健勝のこととお喜び申し上げます。令和4年度は、すべての行事や大会を実施することができました。これは連盟役員を中心とし、会員の皆様の御理解、御協力のもと開催できたものと感謝の思いです。

新型コロナウイルスや自然災害によって、演奏活動が困難になると、人は「演奏したい」「音楽や吹奏楽の楽しさを味わいたい」と心の奥底から欲求がわいてきます。しかし、その楽しさを知る人や、仲間と共に活動するすばらし

さを知る人が減少しているように感じます。今、私たちに求められていることは、「楽しさやすばらしさ知り味わう」ことを増やすことにあります。指導法がわからなかったり、うまくいかない時には、恥ずかしがらずに周囲、仲間に聞く。奏者は一人でも多く仲間を増やすように努力しながら、自分自身が楽しむ。演奏することで聴いてくださる方ができ、一層楽しみと喜びが増える。ここに潤いと幸せがあると私は思います。最初はうまくいかないことも、根気強く継続していくことで、必ず誰かが仲間が手を差し伸べ、音楽や吹奏楽の良さ楽しさを味わうことができるはず。一緒にがんばっていきましょう。そのために埼吹連として、会員の皆様の声を傾聴し本連盟の活動を前進させて参ります。



埼玉県吹奏楽連盟
理事長 奥章

『令和4年度を振り返って』

この令和4年度も、やはり「コロナ」を抜きには語る事の出来ない1年間となりました。

年度頭書に「withコロナ」を標榜していた政府の指針を受け、埼玉県吹奏楽連盟としても、「日常に戻す」を合い言葉に、吹奏楽コンクール、マーチングフェスティバル、小学生バンドフェスティバル、アンサンブルコンテストという四大大事業を、出来るだけ3年前の状態に戻せるように企画、運営を行いました。この中で「録音審査」という今までに無い方式も採用することとなりました。このような「コロナ」と「日常」の狭間の中で、大きな混乱もなく無事運営できましたことは、県連盟役員や支部役員の皆様のご苦勞はもとより、会員団体の皆様、その他関係各所各位のご理解とご協力の賜と、心から感謝を申し上げます。

また、コロナとは別に、大会運営の中で出場団体に大変ご迷惑をお掛け

する事案も発生いたしました。連盟の現場を預かる責任者として大変申し訳なく、この場をお借りし、改めましてお詫び申し上げます。

さて、一昨年は我々の「覚悟」を問われた1年であったと振り返りました。とすれば、昨年度は我々の「決意」を求められた1年と言えるかも知れません。コロナ対策と日常をどのようにして融合させるか。そのためには今までに無かったことも新たに決断し、実行するという「決意」のようなものが随所で必要だったと思われる1年でした。

そして令和5年度は、できることならば、昨年までの「覚悟」と「決意」という困難期を乗り越え、「未来への希望」が大いに語られる年度となってくれることを願って止みません。まだまだ「令和5年度問題」など、連盟が抱える諸課題は尽きませんが、それでも「吹奏楽」という日本が世界に誇れる文化の灯火を消すことなく、未来へとつなぐ若者を育てていく連盟でありたいと願っております。

各支部より活動報告

東部支部の活動報告

金子 和明

1 東部支部吹奏楽研究発表会

今年度は参加団体104、参加人数3503人、5日間にわたって有観客では例年通りの研究発表会を開催することができた。しかしながら、コロナ以前の令和元年と比較すると、団体数は108から104と微減ながら、参加人数は4,841人と、この3年間で東部支部の吹奏楽部員は1,300人も減少していた。実は、昨年度は申し込み受付までして直前の中止となってしまったが、その時にも1,000人ほどの減少だった。それが3割増しで加速していることが分かった。今後、この部員減少の流れをどのように受け止めていくべきか、この3年間のダメージは非常に大きいと感じている。

2 楽器講習会、指導者研修会

1)個人レッスン

5月より、保護者申し込みによる個人レッスンを開始した。結果として年間100名以上が受講し、40名ほどの生徒が継続的にレッスンを受講してくれた。学校という枠組みを越えたことにより、費用、時間の制約がなくなり、誰でもレッスンを受講できる環境を提供できる可能性が見えた。

2)前期楽器講習会

県立久喜北陽高校を会場に、指揮者の甲斐誠先生を講師にお招きして「小編成バンドのトレーニング」について開講した。小編成の吹奏楽部が主流になる中、日々の活動に活かせる内容の充実した講座であった。参加校が4校、参加人数が25人と少人数だったことが残念だった。

3)後期楽器講習会

県立不動岡高校を会場に、打楽器奏者橋本淳平先生をお招きして、モデルバン

ドを久喜市立栗橋東中学校にお願いしてドラムセット講座を実施した。ドラムセットは専門家にレッスンを受けた経験が無い生徒が多く、午前中にドラムセットのグループレッスン、午後には「宝島」を課題曲にして、実際の演奏を通じてドラムセットの演奏法を学んだ。また、並行してフルート、クラリネット、サクソフォン、トランペット、ホルン、トロンボーンのパートレッスン、個人レッスンを開講した。受講生は総計75名に上り、個人レッスン、パートレッスンが徐々に定着してきていると実感した。例年実施していた大学生を講師に招いた講習会、高校生との合同練習会の実施は見送った。

3 バンドセッション2023

20年以上続いてきた行事だが、この行事も3年ぶりに開催することができた。中学生は北と南に分かれ、それぞれ1年生、2年生で合同バンドを結成し、高校生は北と南で合同バンドを結成して3回の練習を経て演奏会を開催した。参加校数32校、参加人数317人で、ディレクターズバンドも出演して、満席の観客の前で演奏することができた。

しかし、令和2年実施の時と比較して参加校41校から9校減、参加者数520人から約200人減と大幅に減少している。合同練習や、発表会を聴き合う文化を取り戻すには、まだまだ時間がかかると感じている。

年間を通じて、Covid-19の影響は徐々に薄くなり、制限も緩和された1年であった。しかし、3年間の制限、中止、マスク生活は大人のみならず、生徒にも多大な影響を及ぼし、部活動参加、継続の意欲を大きく奪うことにつながった。吹奏楽における厳しい現状を突きつけられる日々の中で、何ができるのかを深く考えさせられた。「通常」を取り戻すのではなく、「通常」を作り出す日々が始まったと感じている。

また、音源審査や参加辞退など、コロナの影響が完全になくなった訳ではありません。令和5年度は、全ての団体が練習の成果を十分に発揮できるようになることを願っています

◆ 西部支部コンクール(中学)

| | 中A | | 中B | | | | 中C | | | 中D | | | |
|------|-------------------------------|---|----|-------------------------------|------|----|----|---|---|----|---|---|---|
| 出場団体 | 22+シード2 | | 72 | | | | 4 | | | 8 | | | |
| 入賞 | 金 | 銀 | 銅 | 金 | 銀 | 銅 | 他 | 金 | 銀 | 銅 | 金 | 銀 | 銅 |
| 地区大会 | ⁶ ₍₅₊₂₎ | 9 | 7 | ¹⁴ ₍₁₀₎ | 29 | 26 | 3 | 2 | 1 | 1 | 3 | 5 | 0 |
| 県大会 | 1(1) | 3 | 3 | 4(3) | 4(1) | 2 | 0 | | | | | | |
| 西関東 | 1 | 0 | 0 | 1(1) | 1 | 1 | 1 | | | | | | |

◆ アンサンブルコンテスト

| | 中学 | | | | 高校 | | |
|-------|--------|----|----|---|-------|----|----|
| 出場団体数 | 172 | | | | 53 | | |
| 入賞 | 金 | 銀 | 銅 | 他 | 金 | 銀 | 銅 |
| 地区大会 | 55(21) | 60 | 52 | 5 | 18(9) | 20 | 15 |
| 県大会 | 10(7) | 6 | 5 | 0 | 4(3) | 3 | 2 |
| 西関東 | 5 | 2 | 0 | 0 | 1 | 2 | 0 |

南部支部の活動報告

外崎 三吉

南部支部の事業は、令和4年度南部地区総会において、公益社団法人日本吹奏楽指導者協会 副会長 井上学氏をお迎えして、「文化部活動の地域移行」についてのご講演をいただきました。支部事業においては、3年ぶりに南部支部吹奏楽研究発表会を3日間渡り戸田市文化会館およびさいたま市文化センターにて開催することができましたが、その他の支部事業につきましては見送ることいたしました。令和5年度はその他支部事業が開催できる見込みでございます。

各種大会では、今年度も南部支部から選出された多くの団体が活躍いたしま

北部支部の活動報告

中澤 弘文

22年度は、夏のコンクール・マーチングコンテスト・秋のアンサンブルコンテストを制限の少ない状況で開催できたこと、とても喜ばしかったです。さらに、大会への取り組み以外でも、各団体の演奏会や交流会・練習会等が盛んになり始め、コロナ以前の活動が戻りつつあります。こうした現状を大切に、生徒たちの身体と心の健康・安全を守り、充実した音楽活動をサポートしていくのが連盟の役割だと思っています。

北部支部としては、喫緊の課題になる部活動の地域移行が、盛んになってい

中央支部の活動報告

金井 良弘

中央支部研究発表会は大宮駅東口にオープンしたばかりのさいたま市民会館おおみや「レイボックホール」とさいたま市文化センターにて開催した。レイボックホールは建物の5階～8階部分にホールが位置し、運営が困難になるかと思われたが、参加団体の協力によりスムーズに運営することができた。次年度は費用面や運営面の利便性を考慮して全てさいたま市文化センターで行う予定。吹奏楽コンクールは猛暑の中での開催となり熱中症の心配もあったが、けが人等なく終えることができた。しかしながら、新型コロナウイルス感染

大学・職場・一般支部の活動報告

越川 博

令和4年度を持ちまして20歳半ばから微力ながら務めさせて頂きました支部役員を引退する事になりました。埼吹連は全国的にも珍しく、私達を支部として独立をさせ自主運営だけでなく活動予算も確保頂いて来ました事に御礼を申し上げます。

埼吹連に対して今後の要望としては、先生方は勤務中に出張扱いで会議に参加されていますが、大学生は授業を欠席したり、社会人は仕事中に無断

した。吹奏楽コンクールでは、Aの部において朝霞市立朝霞第一中学校が4大会連続となる全日本吹奏楽コンクールに出場し銀賞を受賞、Bの部においては、東日本学校吹奏楽大会において志木市立志木中学校が金賞、立教新座高等学校が銀賞を受賞いたしました。また、アンサンブルコンテストでは、朝霞市立朝霞第一中学校が2年連続で全日本アンサンブルコンテストに出場し、打楽器六重奏が金賞を受賞いたしました。

さて、前述のとおり令和5年度の支部事業につきましては、楽器講習会等の開催の企画を立案しております。南部支部が発足以来、新型コロナウイルスの影響で支部事業が行えておりませんでしたので、初めての開催となる予定です。ぜひ奮ってご参加いただければ幸いです。

るとは言えないのが現状です。これまでの各学校・団体ごとの活動をきちんと評価し、新しい部活動への取り組みにつなげていかなければなりません。新しい活動形態へと変わっていく中でも、ひたむきに音楽活動に取り組んでくれる生徒たちを保護者・関係者と協力しながら、育てていくことが大切なことはかわりありません。そのための場と機会を確保・充実させていくことが、私たち指導者の役割になります。支部行事でも、校種や地域を越えたつながりを深め、まずは近々に予定されている吹奏楽研究発表会を、充実したステージにできるよう準備と対応を進めていきたいと思います。これからもご協力よろしくお願いたします。

症の影響が多くあり、欠員の中で出場した学校、出場辞退を決断した学校もあったことが心残りだった。また、審査内規の改定による集計等の混乱も懸念されたが、役員の先生方の協力により大過なく終えることができた。アンサンブルコンテストは中央支部としては初めて上尾市文化センターを使用しての開催となったが、ホールの規模等はアンコンには十分だったため運営に支障はなかったが、コンクールと同様に欠員での出場は依然として多く見られた。支部講習会は3年ぶりに開催することができ、埼玉栄高・市立浦和高の協力により主にパートリーダー対象によるパート練習の方法、また同時開催で指導者向けにも講習を実施した。

での参加や休暇を取得して参加しています。スクールバンドとは文化が異なる当支部を更にご理解頂き、全て同ルールで議事を決めるのではなく、教育現場との違いをより理解頂き、埼玉県吹奏楽連盟として全ての部門が発展する事を強く願っております。

最後の1年を振り返り、吹コン全国大会出場の大教大学、伊奈学園OB吹奏楽団、アンサンブルリベルテ吹奏楽団の3団体が金賞を受賞できました。アンコン全国大会では、文教大学が銅賞、ソールリジェール吹奏楽団とアンサンブルリベルテ吹奏楽団が金賞を受賞しました。

各事業部より活動報告

コンクール事業部

コンクール事業部は令和4年度において、全団体が入賞することができるようにするなど、様々な改革を行った一年であった。理事会等での議論を経て、これらの改革が実現することとなったが、その際には様々なご意見を頂戴することができ、この点において深く感謝申し上げます。

参加者への教育的配慮から、全団体入賞のルールが導入された。また、審査の明確化を目指して、100点満点の審査や代表数プラス3団体までの同点を避けるルールが新たに作られた。さらに、コロナ禍であることを念頭に音源審査

が創設された。しかしながら、これらのルールには一長一短があり、様々な観点からの検証が必要であることは明らかである。実際に今年度のコンクールでは、集計に予想以上に時間がかかったり、同点が発生し、修正に手間取ったりするなどの課題も生じた。

円滑な大会運営を行うためには、広く意見を頂戴し、改善を繰り返していく必要がある。また、少子化や部活動の地域移行など、部活動を取り巻く環境の変化にも注意を払い、中・長期的な視点でより良いコンクールの意義を模索していかなければならない。コンクールは吹奏楽活動の一端であり、競争だけを目的とするものではなく、様々な状況に置かれている加盟団体にとって有意義なものであり続ける必要がある。

コンクール事業部担当 萩原 亮彦

アンサンブルコンテスト事業部

令和4年度アンサンブルコンテストは「コロナ禍以前の状況に戻す」という大きなテーマのもと開催されました。集計方法も吹奏楽コンクールと合わせ、埼玉県独自のルール(その日の代表チーム数+3チームは同点を出さない順位点方式)での初年度として開催されました。おおむね順調に開催できたものの、一部の大会では集計ミスや発表ミスがあり、とても残念でした。これは運営委員や集計担当者への説明不足(理解不足)や伝達漏れが原因と思われる。次年度以降の課題として反省すべき点です。

尚、主な変更点は次の通りです。

- ・鑑賞は終日入場可(地区大会:無料、県大会:有料)
- ・閉会式(審査結果の発表および表彰を含む)は顧問と生徒のみで実施
- ・音源審査あり(但し推薦はなし)

また、打楽器アンサンブルが代表になる確率が高いという実績から、公平性に欠けているのではという意見もだされている。しかし上位大会はフリー開催であること、出張の回数が増えること(中学は割と厳しい)、少人数バンドの工夫など、それぞれ学校の実情や考え方もあるので、今後どう進めていくべきか難しい問題です。いずれにしろ生徒にとっては、3年ぶりに他団体の演奏を会場で聴けたことが何より大きな収穫でした。

アンサンブルコンテスト事業部担当 落合 誠

マーチングコンテスト事業部

マーチング事業部では、主に4つの活動を行っております。

①マーチング・オン・ステージ(5月29日)

春日部市民文化会館大ホールにて、実に3年ぶりとなる開催となりました。また、今回で24回目の開催となり、春日部を中心とした地域の方々からも期待されるステージとなっております。コロナ禍で不安な点多々ございましたが、当日は多くのお客様が来場され、活気のあるオンステージとなりました。

②小学生バンドフェスティバル&マーチングコンテスト(8月23日)

今大会で35回目を迎え、ウイングハット春日部にて盛大に開催されました。コロナ対策として3部制で開催しましたが、高等学校以上部門は入場券が即日完売する状況となりました。多くの方がマーチングを待ち望んでいた結果であると思います。また、令和4年度は20団体の参加となり、部員数の減少や規模縮小が叫ばれているなか、マーチング事業部では着実に成果をあげております。

③マーチング講習会(12月26日)

久喜市立久喜中学校にて、実に3年ぶりとなる実施となりました。4つのコースに分かれ、マーチングの講師6名から指導いただきました。当日は100名を超す生徒が参加し、活気のある内容となりました。初めて参加される団体もあり、楽しそうに笑顔で動く姿がとても感動的でした。動いて吹くことの喜びを体現しているようでした。

④マーチング支援事業

平成30年度(2018年)から始まり、6年が経過しました。令和4年度では、観明高校が支援事業を利用し、新たにマーチングを始めました。今回で5校目の中学校、高校が支援事業を利用しましたが、いずれの団体も関東大会出場を果たす結果を出しております。また、観明高校は初出場、初の全国大会出場まで果たされました。部員たちの喜びの声も大変感銘深い内容となっております。マーチングは皆が主役で、座奏だけでは得られない感動があります。

これからもマーチングの発展と在り方について、各事業部と連携し模索してまいります。

マーチング事業部担当 岩瀬 烈

大会を振り返って

第41回 小学生バンドフェスティバル

大阪城ホール 2022年 11月19日

さいたま市立上里小学校マーチングキッズ 石井 尚文

私は昨年度さいたま市に赴任して参りました。本校は全校児童約350人の小規模校です。部員も12人と非常に少なく、2年連続の全日本小学生バンドフェスティバル出場を果たすことができたものの、6年生の卒業により、存続が危ぶまれる状況です。本校に着任するまで私はマーチングの指導経験がありませんでした。12人のバンドで、経験のないマーチングの指導ということもあり、多くの不安を抱えさいたま市に着任しました。しかしながら、4月から子どもたちの練習を見ていて、少人数ならではの良さを知ることができました。コロナ禍において、全員での合奏が困難であった団体も多いと思いますが、本校は毎日全員での合奏を行うことができました。また、1日1~2時間の練習時間を確保していますが、1週間の中で、全員の課題と個別に向き合うこともできました。このように、少人数ですが一人一人のサウンドづくりに注力し、大会に臨むことができました。結果は銅賞でしたが、部長の6年生が新聞社のインタビューにて

「一人一人が自分の音を大切にするという責任は果たせた」という感想を残しました。この言葉の中に、子どもたちの努力の結果がすべて詰まっていると思いました。大阪城ホールでの演奏は子どもたちにとって人生の宝になったことでしょう。

1年間指導をした中で、どのようにすれば持続可能なバンドとなるか考えさせられる1年間でした。私は音楽科教員として小学校では、バンド活動の楽しさに気づき、生涯にわたって音楽を愛好できる児童を育成したいと考えています。結びに大会の運営に関わってくださった、役員の皆様に厚く御礼申し上げます。



大会を振り返って

第70回 全日本吹奏楽コンクール

| | |
|---------------------|----------------------|
| 名古屋国際会議場 センチュリーホール | 北九州ソレイユホール |
| 2022年 10月22日 中学校の部 | 2022年 10月29日 大学の部 |
| 2022年 10月23日 高等学校の部 | 2022年 10月30日 職場・一般の部 |

さいたま市立土屋中学校 浅井 加奈子

吹奏楽部の顧問としての醍醐味でもあり苦しいと感じることは、自らも演奏者のひとりであるということだ。

舞台上立つということ。その道のりは平坦ではなく、順調であることなどまずない。運動部の顧問とは違い、私たちは子供たちと音楽を練り上げ、育み完成させ、同じ舞台上に立つ。家庭のこともし、授業、校務分掌、などなど様々なことをやりつつ、本番前には自らの体調を整え、うっかり風邪などひけない。特にこのコロナ禍の本番前の緊張感は、自分のことだけではなく、多方面に神経を張り巡らせ大変であった。さらにこの10年間は我が家の子育てもあり、様々な要素満載のカオスな日々は、本当に本当に大変であったのだ。

大変、それが大きく喜びに変わるとき。

それは自分の関わってきた子供たちが、困難を乗り越えひとつ大きくなったと感じるとき、自分との3年間を終えて大きく成長し巣立つとき。この時の喜びは何事にも代え難い。そして、次のステップでも吹奏楽を続けてくれたり、社会に出たときに、吹



奏楽を介しての経験がその支えになっていると聞くと、私の心には花が咲き、これ以上の喜びはないのだ。

今後部活動の形が変わっていき、今のような部活動のスタイルでなくなったとしても、私は何らかの形で吹奏楽に関わっていきたいと思う。それは、この年齢になっても、ときめいたり、切なくなったりと様々な感情を心の中に彩り、子供たちと共に舞台上に立てることの喜びを感じ、かみしめて一緒にやってきたから。大好きな子供たちと共に…、そんな私でこれからもありたい。

越谷市立大相模中学校 田中 秀和

昨年度に引き続き、全日本吹奏楽コンクールに出場することができました。学校の工事が今年度も行われ、夏休みの校舎使用が今年も全くできなくなってしまいました。2年続けてということで大変な苦労を強いられました。近隣の地区センターを借りての練習となりましたが、1部屋なので合奏しかできず、パート練習がほとんどできませんでした。そのため時間的なロスも大きくなかなか仕上がらず、焦りも大きかったです。また、新型コロナウイルスの感染により地区大会、県大会、西関東大会と全員揃うことがなく、パートの欠けたところを急遽補いながらの演奏となりました。しかし、生徒たちは常に前向きに取り組み、急な対応にも緊張しながらもしっかりと対応していました。そして、全国大会に進むことができましたが、何と朝1番の演奏となりました。それまでのコンクールは1番の演奏でも10時過ぎの演奏ですが、全国大会は9時演奏開始です。7時30分には集合なので、当日は3時起床、練習、朝食はバスでおにぎりとい



うハードスケジュールでした。寝坊する生徒もおり大変でしたが、全員揃っての演奏ができ、顧問としても本当に嬉しかったです。3年生はコロナ禍の影響をものに受け、入部が7月になり練習もままならず、演奏会もできないという学年でした。全国大会のステージで3年生を見て、本当によく頑張ったなと思い、感慨深い気持ちでいっぱいになりました。やはりステージでの演奏に代わるものではなく、そして多く方に聴いていただける喜びは大きいものです。全員揃って笑顔で演奏できることが一番です。

朝霞市立朝霞第一中学校 3年 保坂 海斗

全日本吹奏楽コンクールに出場できたこと、何より全国大会の舞台上で演奏できたことをとても嬉しく思います。

私達が入学した当時は、ちょうど新型コロナウイルスが猛威を奮っている頃でした。自分たちは新型コロナウイルスの影響で2ヶ月ほど遅い入部となり、技術面などで先輩方に追いつけるか心配だったことを今でも覚えています。先輩方が卒業し自分たちの代になったもの思うように活動が出来ず、自分たちの力無さと行動力の無さを痛感しました。

それでも全国大会に出て金賞を受賞する夢を諦めきれず、一生懸命練習に取り組みました。

課題曲の「やまがたふぁんたいじ」では山形県の民謡の代表的な旋律が多く使われているため曲の練習を始めた当初は”どの山形民謡が使われているのか”などをみんなで調べ、そこからイメージを膨らませて演奏に取り入れました。メロディーが”歌”ということからも、より本物に近づけられるように何度も聞きました。

また自由曲の「サロメ」は、内容が中学生には難しい内容のため、先輩方のように部員

県立伊奈学園総合高等学校 臼田 もも花

こんにちは。伊奈学園総合高校吹奏楽部で三役を務めておりました、臼田もも花です。伊奈学園吹奏楽部は、2022年度第70回全日本吹奏楽コンクールに出場いたしました。全国大会出場を迎える過程で、数え切れないほど多くの経験を得ることが出来ました。今回は、その中で私が最も印象に残っているものについてお話しします。私は、全国大会に出場するまでの過程、そして当日の演奏を通して、仲間と音楽をつくる喜びを改めて感じることができました。これは初歩的なようで、実際にはなかなか味わえないものだと思います。

伊奈学園の、Aの部の出場メンバーは、55名の部員に加え、指揮者である宇畑先生、計56名です。このような多人数でひとつの音楽をつくり上げるというのは、そう簡単なことではありません。一見、56名もいるとなると、演奏する上での責任は分散されるように思われるかもしれませんが。私も、吹奏楽部に入るまではそう思っていました。しかし実際には、1人の音が他の55人の演奏に影響します。演奏者は、自分以外の55人分の責任を背負って演奏することになるのです。

その重みを理解した私は、コンクールに向けた練習が始まった頃、「自分の音で仲間の音を壊してしまうのが怖い」と感じていました。それによって、息が充分に吹き込めず、小さな音で合奏に参加してしまうことも、多くありました。しかし、それでは一緒に

埼玉栄高等学校 奥 章

毎年3月から4月にかけての頃、部員たちと「今年の目標は何だ?」という話をする。すると然も当然のように「全国大会に出て1金(金賞の1位)を取ることです!」と事も無げに返ってくる。そして私は思う、「お前等、なんて大それたことをそんな簡単に言えるんだ!!」と。そこからどくどくと説教が始まる。毎年の初めの恒例行事だ。この所、毎年全国大会に出場させていただき、「西関東の安定の御三家」などと揶揄されているが、全国出場とはそんな甘く簡単なものではない。毎年生徒は代わるし、近隣のバンドの実力は年々向上している。それに引き替えこちらは、年を取り老化が進む、気力体力が衰える、目も耳も頭もボンヤリして全く冴えない。そこで、子供から元気を貰うための冒頭のルーティーンである。子供に言い聞かせているようで、実は自分自身を叱咤激励しているのである。

ということで、今年は定年も迎えるし、最後にやりたい曲を思い切りやって終わりたい、と思い立ちブッチーニの「蝶々夫人」を自由曲に選曲した。8年前にも演奏しているが、長いオペラの随所には演奏してみたい名曲が溢れている。一部場面を入れ替えてやってみた。生徒たちも私の決意(?)を薄々感じているようで、一緒にオペラの世界にのめり込んでくれた。



全員で劇場に観に行ったり、DVDの鑑賞をしたりなどは出来ず、どんな場面の音楽なのかを理解して表現するのに苦労しました。

しかしそのような中でも顧問の外崎先生、私たちのために編曲をしてくださった小野寺先生、その他たくさんの先生方からのご指導があったからこそ、夢の全国大会に出場することが出来ました。

私達がここまで来れたのは、顧問の外崎先生の熱いご指導があったからです。指導して頂いたことを音楽面だけでなく様々な場面で活用していきたいと思います。



頑張っているメンバーや、応援してくれる友達に顔向けできないと思うようになり、自分の音をしっかりと主張することを心がけるようにしました。そうして練習を重ねていくうち、自分の音が仲間の音と一緒にひとつの音楽となって客席へ届いていくことが、この上なく嬉しく感じるようになりました。全国大会直前ともなると、自分の音がなければこのバンドの音楽が成り立たない、という自信を持てるようにもなりました。それはきっと、他のメンバーも同じ気持ちだったことでしょう。

このように、私は全国大会に出場することで、仲間と共に音楽をする喜び、そして、自分の音楽に対する誇りを見出すことができました。この経験は、一生忘れることのない、輝かしい思い出です。



今年の3年生はコロナで入学式が出来ず、実質登校は6月から、部活動は7月からという不遇の生徒たち。だからなのか、部活動にかける思いは人一倍強かった。金賞は頑張った君たちへの神様からのご褒美だよ。この子たちと一緒に「卒業」を迎えられて本当に良かったと思える生徒たちだった。

毎年貴重な経験をさせていただけたことに感謝したい。私のような何の能力も無いものを使い続けてくれた学校に感謝したい。私を信じて一緒に頑張ってくれた全ての生徒たちに感謝したい。言いたいこともあつただろうが黙って応援していただいた保護者の皆さんに感謝したい。私の我が儘を聞きながら私の足りないところをそっと補ってくれた同僚の顧問等に感謝したい。私に係わってくれた全ての人に感謝したい。そして、そして、文句を言いながらも一番応援してくれた家族に感謝したい。

文教大学吹奏楽部 高橋 茜莉

文教大学吹奏楽部 高橋 茜莉

10月29日(土)に、北九州ソレイユホールにて行われました「第70回全日本吹奏楽コンクール」大学の部において、当部は金賞を受賞することができました。日頃よりご指導、ご声援いただきました皆様に深く感謝申し上げます。

私たちは「不撓(ふとう)」という目標を掲げ、どのような困難にも屈さず、メンバー全員で日々練習に励んでまいりました。3年ぶりのコンクール出場、多くの方から期待の声をいただけて嬉しい反面、不安やプレッシャーを感じていました。また、練習では新型コロナウイルスの影響で何度も何度も活動が止まり、思うようにいかないことがたくさんありました。

しかし、私たちは練習ができない中でも、自分に今何ができるのかを一人ひとり考えました。個人練習に励んだり、録音を聴いて考えたり、仲間と話し合いをしたり、決して誰も諦めませんでした。何よりも練習過程を大切にし、この夏が意味のあるものになるように、自分たちの納得のいく音楽ができるように取り組んでまいりました。

その結果、全国大会という大舞台上、練習の成果を発揮し、私たちの想いを込めた

伊奈学園OB吹奏楽団 小林 健太

伊奈学園OB吹奏楽団 小林 健太

伊奈学園OB吹奏楽団 小林 健太

2022年9月。西関東大会終了後、コロナの関係で表彰式はYouTube中継(リモート)。ほとんどの団員が新潟から埼玉まで大型バスで移動するため、バスの中でマイクを繋いで、皆で緊張しながら結果を聞いていたことを今でも思い出します。西関東大会から全国大会終了まではあっという間に時間が過ぎました。全国大会の前日練習・当日に改めて感じたことは全員で音楽することの楽しさです。同じ伊奈学園総合高校を卒業した年齢が違うメンバーですが、合奏の時のみ全員高校時代に戻ったような感覚になることができます(笑)。

課題曲はマーチ「ブルー・スプリング」、自由曲は楽劇「サロメ」より7つのヴェールの踊りを演奏しました。自由曲は演奏するだけでも難しいですが、表現がとても難しく埼玉県大会から全国大会までずっと苦労しました。故森田先生編曲の自由曲でOB楽団として、初めて全国大会金賞することができ、メンバー全員とても嬉しかったです。個人的には、2021年卒業35期のメンバーは高校3年生の時に吹奏楽コンクールがコロナで中止となってしまいましたが、そのメンバー達が楽しそうに大会に参加していたことが嬉しかったです。

アンサンブルリベルテ吹奏楽団 越川 博

全日本吹奏楽コンクールへは25回目の出場を果たし、全国の一級吹奏楽団として単独1位となる21回目の金賞受賞記録を更新する事ができました。今回の全国大会は規定により、当団常任指揮者の福本信太郎先生が相模原市民吹奏楽団を指揮する事から、急遽、作曲家の日景貴文先生に全国大会(小倉開催)の指揮をお願いしました。

県大会及び西関東大会は福本先生の指揮でコンクールへ出場し、西関東大会後の10月から約1ヵ月弱、週1-2回の一般団体としては、7-8回の練習で全国大会を迎える事となりました。



音楽を多くのお客様に届けることができたこと、大変嬉しく思います。「ジェネシス」「リベラシオン」というこの2曲は文教大学にとって思い出深く、大切な曲となりました。今後も皆様へより良い音楽を届けられますよう、磨きをかけてまいります。最後になりましたが、今回はこのような機会をいただきありがとうございます。これからも、文教大学吹奏楽部をよろしく願っています。

伊奈学園総合高等学校吹奏楽部 宇畑 大樹

伊奈学園総合高等学校吹奏楽部 宇畑 大樹



私達は伊奈学園総合高校の卒業生で活動しております。指揮の宇畑先生も1期卒業生です。年1回の定期演奏会開催、コンクール・アンサンブルコンテストへの参加、合同演奏会への参加をしています。

コロナ禍で練習の制限があり、活動ができない時期もございましたが、音楽することの大切さ・楽しさを感じることができました。今後も大人の「伊奈サウンド」を目指し音楽をしていきます。

伊奈学園総合高等学校吹奏楽部 宇畑 大樹

団員から不安を感じる事はありませんでしたが、リベルテの実績から全日本初の日景先生がプレッシャーを感じない訳は無く、練習毎にプレッシャーをかけないようにしたり、逆にプレッシャーをかけたりと試行錯誤していました。

全日本初の指揮だけでなく、今回の全国大会後半の場は豪華揃いで、半数以上が金賞受賞常連のプリヂストン、ヤマハ、東京陸生、光、他。

結果的に、課題曲の「ジェネシス」と自由曲の「悪魔の聖書」の作品の持つ力と指揮者の日景貴文先生の指揮&指導力でオールAで金賞を受賞する事が出来ました。

今後も、1年1年を大切に演奏クオリティの維持ではなく、更なる発展を目指して活動して行きます。

大会を振り返って 第22回 東日本学校吹奏楽大会

府中の森芸術劇場 ドリーむホール
2022年 10月8日 中学校部門
2022年 10月9日 小学生部門 / 高等学校部門

さいたま市立芝原小学校

永平 真子

芝原小学校金管バンドは、サクソルン属の金管楽器と直管楽器のトロンボーン、打楽器で構成される英国式金管バンドです。ロンドン出身の作曲家、「フィリップ・スパーク」の「祝典のための音楽」に取り組むにあたり、サクソルン属の楽器特有のまろやかな音色がバンドの全員で奏でられるよう、子どもたちと楽器の奏法や音色にこだわって丁寧に練習を重ねていきました。指揮台を使わない英国式金管バンドは、奏者との距離が近くなるぶん指揮者の呼吸によって演奏が大きく変わってしまうため、ゆるやかな中間部は指揮者の自分の技量をもっと高めればさらに良い演奏になるのに…と、自分の指揮の技術の至らなさをもどかしく思う日もありました。そんな時も共に悩み、共に成長を喜び、たくさんの本番を経験する中で私自身も一緒に成長する機会をくれた子どもたちに、とても感謝しています。

志木市立志木中学校

齋藤 正子

第22回東日本学校吹奏楽大会は、10月8日に東京・府中・府中の森芸術劇場ドリーむホールで開催されました。本校からバスですぐに行ける場所でしたので、最後の練習も志木中の音楽室で行うことができました。この日の朝は、10月とは思えぬほど寒く、渋滞に巻き込まれないように、早めに出発したところ、集合時間よりだいぶ早く到着してしまい、寒い中みんなで会場の前でずっと待っていたのをついこの間のように感じます。生徒たちの一番の思い出は、新潟(西関東)のようでした。遠征が何より楽しかったようです。

東日本大会まで行かせて頂いたことで、多くの演奏機会を得、多くの方に聴いていただくことができたことは、この上ない喜びです。私も、生徒たち自身もこのような素晴らしい大会まで進めるとは、思ってもいなかったです。今年度もコロナとの闘いでした。毎回の大会の度、全員で参加できるか、このことばかり考えていました。22人しかいないメンバー、一人でもかけたら満足な演奏はできないことは、みんなが分かっていました。コロナ過で時間制限がある中、生徒も工夫しながら時間をくり頑張ってくれました。B編成の頂点である大会で金賞をいただいたことは、私にとっても一生の

鳩山町立鳩山中学校

関口 弥生

令和4年度は、鳩山中学校吹奏楽部にとって東日本大会という新たなステージで演奏する喜びを得られた忘れたい年となりました。

コロナ禍で部活動にも様々な制限がかかるなか、日々、いつ練習ができなくなるのかという見えない不安との戦いでしたが、部員一丸となって同じ目標に向かって練習に取り組めたことが、今回の結果につながったのだと思います。また、県大会、西関東大会と進む中で、審査の先生方からいただいた言葉を真摯に受け止め、一つ一つの課題を解決していく過程を前向きに捉えることで、最後までモチベーションを保って、曲と向き合うことができました。

東日本大会当日は、早朝、圏央道の渋滞に巻き込まれ、あわや本番に間に合わないのでは、というアクシデントもありましたが、東京会場の役員の方々のご協力や温かいお言葉がけのお陰もあり、ステージでは、この場で演奏できる喜びを体全体で感じながら演奏することができました。表彰式で「金賞」とアナウンスされたときの、



昨年度の6年生が4・5年生の頃は、コロナ禍が特に猛威を振るい、金管バンドの活動が数カ月できないことや、1日1時間、密にならないパート練習や個人練習しかできないこともありました。限られた時間の中で先輩から教わったことを一生懸命に吸収した6年生や、本番の見通しが立たない中でも真摯に自分たちの技術や音楽性を磨き、後輩へ伝えてくれた卒団生のおかげで、コロナ禍の時期を乗り越えることができました。

今までの卒団生が繋いできたバトンによってたどり着いた東日本学校吹奏楽大会。このメンバーで演奏できる感謝と、1つの曲を突き詰めることの面白さ、金管バンドの楽しさを、改めて感じることができました。今年度も、新たな部員たちと丁寧に練習を重ね、「芝原サウンド」を奏でていこうと思います。



宝物です。多くの方々のご支援と援助に支えていただき実現しているということもこの場をおかりして感謝申し上げます。3年生、たくさんの演奏機会をありがとうございます！楽しい1年でした。



ステージ上から見た客席の眺めや部員たちの表情は、今でも忘れることができません。末尾になりますが、本大会に出場するにあたり、指導の先生方をはじめ、ご支援やご協力をいただいたすべての方々に、この場をお借りして感謝申し上げます。ありがとうございました。

桶川市立桶川中学校

福田 恵美子

桶川中学校吹奏楽部は、第22回東日本学校吹奏楽大会初出場及び金賞受賞という素晴らしい結果を残すことができました。府中の森芸術劇場での演奏はあつという間の時間であり、感動の時間でした。演奏後、部員たちが皆「楽しかった」と笑顔で言っているのを見て、ここまで来られて本当に良かったと思いました。また当日は、各支部の代表校の素晴らしい演奏を聴かせていただけたことも、かけがえのない経験となりました。

昨年度を振り返ってみますと、新型コロナウイルスの影響を大きく受けた1年でした。練習の停止や部員が揃わないことが何度も繰り返される日々の中で、大きな不安や焦りに襲われました。特に、全員揃って演奏することができない状況で出場した地区大会は、大きなプレッシャーとの闘いでした。部員全員がお守りを握って祈った結果発表の時間の心臓の鼓動と代表となれた時の安堵感、部員たちの涙を流す姿は今でも忘れることができません。また、10月の東日本大会の前にも部員の欠席が重なり、リモートで合奏をしたことも思い出します。リモート合奏をすることで、少しでも部員たちの不安を軽減できればと考えてのことでした。音が全く合わずうまくいかないり

埼玉県立大宮光陵高等学校

3年 八木 絢音

東日本大会を終えて、今こうして振り返ってみると、改めて大きな成長と貴重な体験ができたと感じます。西関東代表という、今までとはまた違った重みの中で立つ舞台は、過去に感じたことのない緊張感とワクワクでいっぱいでした。

3年生の私は、東日本大会以前の大会では、「もしかしら今日でこのメンバーと演奏できるのは最後かもしれない」というプレッシャーがありましたが、最後の大会と決まっていた東日本大会の舞台では、思いっきり自分たちの音楽に集中し、楽しめたのではないかと思います。私たちが吹奏楽部に入部した頃から、私たちの活動は常に新型コロナウイルスと共にありました。コンクールも例外ではなく、地区大会・県大会ではメンバーを変更せざるを得ない状況になり、一時は部活動停止、楽器に触れられない、合奏ができない事態にもなりました。そんな中でも、目標としていた「西関東大会金賞」を達成するために、メンバー、メンバー外関係なく、部員全員と先生方で切磋琢磨して支え合いました。東日本大会出場が決めた時の喜びや、みんなの笑顔は忘れられません。

立教新座高等学校

2年 満井 光

本校吹奏楽部は、東京府中の森劇場で行われた第22回東日本吹奏楽大会に2年連続の出場、銀賞を受賞致しました。まずは、コロナ禍のような難しい時分なのにも関わらず、大会の準備を進めてくださった吹奏楽連盟の方々や、関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

14人という少人数でコンクールに挑むには、演奏だけでなく運搬など多くの課題がありましたが、部員たちは「自分たちの強み」を考え、高め合いながら共に成長を重ねていきました。

たった2人でバンドを引っ張ってくださった先輩方や、共に励んだ同輩、ついてくれた後輩に感謝し、4月から始まる新体制では、今の自分たちに出来ることを積極的に取り組んでいきたいと思っています。

最後になりましたが、埼玉県吹奏楽連盟や吹奏楽に関わる皆様のご発展をお祈り申し上げます。



リモート合奏をやる中で、みんなで共に練習ができることがどれほど幸せなことなのかを思い知らされました。

このような日々の中で、繰り返し生徒達に伝えたのは、「今できることを全力でやろう!」という言葉でした。その言葉に応えて苦境を乗り越える経験を積み重ねる度に、生徒たちは「困難に強く立ち向かう!」という姿に成長していったように見えました。とても大切な在り方を経験できたのだと思います。結びに、これまでお世話になったすべての皆様に心から感謝を伝えたいと思います。本当にありがとうございました。

今回のコンクールで得られた経験や自信は、確実に私たちにとって貴重な財産になったと思います。また、同じ目標を持って切磋琢磨し、一緒に喜びを分かち合った仲間や先生方は、一生の宝物だと思います。東日本大会に出場できたこと、このメンバーで音楽することができたことは本当に幸せで、かけがえのない思い出です。改めて、大会出場にあたり、関わってくださったすべての皆様に心より御礼申し上げます。



大会を振り返って 第35回 全日本マーチングコンテスト

大阪城ホール

2023年 11月20日 中学校の部 / 高等学校以上の部

久喜市立栗橋東中学校

部長 渡辺 紗衣

3年ぶりの全国大会出場。誰もそのステージに立ったことはなく、さらにコロナ禍という限られた時間の中で、私たちにできる最高のステージを作り上げることは容易なことではありませんでした。不安はたくさんありましたが、そんな時はいつも「私は強い!私にはできる!」全員でそう叫びました。不思議と自信が湧いてくるこの言葉は、私たちにとってお守りでした。楽しいことだけでなく、辛いこと、苦しいこともありましたが、全国大会のステージで演奏できた時、諦めずに努力し続けて良かったと心から感じました。誰一人欠けることなく出場することができ、改めてたくさんの方々に支えられていると実感できた瞬間でもありました。

夢のステージである大坂城ホールで、38人の仲間や先生と共に「最高の音楽」ができたことは、私たちにとって一生の思い出です。



県立伊奈学園総合高等学校

3年 志潟 あかり

伊奈学園は、マーチングに初めて触れる人がほとんどのところから練習がスタートします。私はそのような人たちに、今年のシーズンを通して“マーチングを好きになってもらう”という目標を立て、“マーチングの魅力とはなんだろう” “そもそも私がマーチングを好きな理由ってなんだろう”ということについて考えていました。そんな中、宇畑先生が練習中に、「一人ひとりの花を咲かせよう。それが集まった時に綺麗な花畑になる」と、私たちメンバーに声をかけてくださったことがあります。この言葉を聞いた時、私はすごく感銘を受けました。まさにこの言葉がマーチングの魅力を語っているのではないかと思ったのです。人は当たり前ですが一人ひとり身長も、骨格も筋肉のつき方も考え方も違います。それが何人も集まって、それぞれショーについて考え、想いを持って演奏演技をする。この一人ひとりのバラバラがああ30m×30mのフロアの中で揃い、想いが一斉に客席に向かっていった時に感動が生まれているのではないのでしょうか。私は、これから始まるショーに対する「これからやってみようぞ!」というような緊張感や、段々と終盤に向けて胸が詰まる感覚が大好きです。このことに気づき、どうしたらこの楽しさや感動がメンバーに伝わるか意識しながら練習に取り組んできました。そんな中迎えた大阪城ホール。フロアに立った時に前に立つメンバーたちの背中から感じた気迫に思わず嬉しくて口角が上がってしまったこと、カンパニーでは自然と涙が溢れてしまったことは本当に忘れられません。こんなに私も楽しくて、感動できた

叡明高等学校

中畑 裕太

「できっこないことをやってみよう」ある映画で知った私の大好きな言葉です。リーダーとして活躍した生徒以外の全員がマーチング初心者でスタートした叡明高校吹奏楽部。掲げた目標は「目指せ!大阪城!!」。リーダーの生徒は中学時、あと1歩で大阪城を逃した生徒であり、この目標がどれだけ困難なことか理解していたようですが、私も含め、憧れの舞台上立ってみると沸き立っており、苦笑いだったようです(笑)

全日本マーチングコンテストの映像をみんなで見て、歓声を上げ、盛り上がったのはいい物の、実際歩き始めたらみんな足がパンパンに腫れ、身体中がバキバキの筋肉痛でした。今では当たり前に見えるリアマーチも、当時は未知の生物の怪しい動きのようでしたね。

そんなこんなで県大会を迎え、見事西関東大会の切符を獲得。嬉しさ爆発でしたが、コロナ禍ということもあり、みんな叫びたい気持ちをグッとこらえてガッツポーズ。ここまできたら大阪城を決めてやろうと一致団結に拍車がかかりました。

のは、きっとメンバー一人ひとりが自分の花を咲かせ、ホールいっぱいの花畑が客席へ届いたからであり、マーチングを楽しんでいるからなのではないかと思っています。結果よりも何よりも大事なものを学べたこと、得られたことに感謝するとともに、次の代や、マーチングに少しでも興味を持ってくれた人たちがこの魅力に気づき、マーチングが好きな人が増えてくれるといいなと願っています。これからも、マーチングをずっと応援しています!

マーチングを始めてみて一番の収穫は、生徒同士による指摘や確認作業が座奏に比べ、まかり能動的に行われるという点です。目に見えない「音」を揃えたり合わせたりすることに比べ、列がズレたりポイントに立ってなかったり等は目に見えるため、意識しやすく、指摘し合いやすく、腕に落ちやすい。これは非常に大きなマーチングの利といえます。

そんなこんなで西関東大会を迎え、見事大阪城行きの切符を獲得!!バスの中で大絶叫!

そんなこんなで全国大会を迎え、夢の舞台は噂通りの大パノラマ。最高の6分間でした。

終わってみれば子供たちはマーチングが大好きになり、叡明の大きな活動の柱となっていくことになりました。

結びになりますが、マーチング活動のスタートに際し、連盟の支援事業を活用させていただいたことは、物心両面において起爆剤となったことは言うまでもありません。この場をお借りし、埼玉県吹奏楽連盟様に心より感謝申し上げます。

大会を振り返って 第46回 全日本アンサンブルコンテスト

アクトシティ浜松

2023年 3月19日 中学校の部 高等学校の部 大学・職場・一般の部

朝霞市立朝霞第一中学校

3年 内田 一

全国大会に出場できて本当に嬉しかったです。打楽器アンサンブルとして結成されたこのチームの半分は一年生、二人は打楽器未経験者ということもあり、とても不安が多かったです。アンサンブルは「合わせる」「一緒に」することがほぼ全てだと思うので、一緒に全員で作りに上げていくというやり方で仕上げました。具体的には曲の場面を想像して、この楽器はこの場面のこれを表している、というふうに見え方を交換したり、場面ごとの演奏について全員が納得してできるまで様々な表現を試したりしました。ただ譜面をそのまま練習せず、譜面を様々な方法で演奏をしたり、体を使って練習するなど様々な練習方法を取り入れてきました。一つ目の方法では歌詞を自分たちで当てはめて作ってみたり、一部の音符だけで演奏したりしてみました。二つ目の方法では足踏みしながら手拍子でリズムを取るなどをしました。曲の中でも難しかったのが冒頭部分と終盤部分です。冒頭部分ではとても弱い強弱の中で雰囲気を作り

久喜市立鷲宮東中学校

2年 金子 理桜

私たちは全日本アンサンブルコンテストにクラリネット五重奏で初出場させていただきました。2年生2人と1年生3人のチームのため、はじめは練習がうまく進まないことが多く、苦しいこともありました。しかし、練習を積み重ねていくうちに団結力が高まり、チームワークを生かした演奏が出来るようになりました。約半年間に渡って一曲に向き合い、思い描いた音楽を創り上げていった時間は、私達5人の宝物となりました。

全国大会では心から楽しんで演奏することを目標にしていましたが、初めて立つ全国のステージで、今までに感じたことのない大きな緊張感を味わいました。そんな私たちに、仲間への信頼感と今まで積み重ねてきたものが自信を与えてくれ、最後の一音まで堂々と演奏することが出来ました。私たち自身のために金賞を受賞することはもちろんですが、何よりも全国大会当日に入籍する顧問の齋藤先生に金賞をプレゼントして、恩返しをしたいという気持ちのほうが強かったです。あと一歩金賞には届かず悔しい思いをしましたが「楽しかった、悔いのない演奏が出来た」と笑顔で終えら

県立伊奈学園総合高等学校

全日本アンサンブルコンテストに出場するまでの過程でこの曲をどのように表現したいのか、という部分が大変難しかったように感じます。夏の大編成から変わり少人数で演奏するため一人一人が自分の音と表現に向き合わなければいけません。始めたての頃はどのように表現しているのかが分かりにくく、自分たちでも悩む日々が続きましたが、アンサンブルコンテストを通じて培った表現力や周りの音を聞く力をこの先の活動に活かしていきたいと思ひます。 2年 谷古宇 美空

私は全日本アンサンブルコンテストに出場して今までにない信頼関係を築くことができました。練習は大変な部分が多くありましたが、揃っていなかった部分がびたりと合った時や4人の音が調和して伝えたい感情を上手く表現できた時にアンサンブルを経験することが出来てよかったです。これからはこのアンサンブル力を生かし、さらに自分の技術を高め、仲間と一体感のある音楽を作り上げていけるよう努力していきたいと思ひます。 2年 若生 清花

全日本アンサンブルコンテストでは僕個人としては不完全な演奏でした。演奏の前半で僕はミスをしてしまいましたが、他3人の仲間の最高の演奏のおかげで、動揺せずに安心して演奏することができ、その後は自分の力を出し切った演奏をする事がで



ながら曲中のテンポを決めて安定させなければならないため、様々な工夫をする必要がありました。終盤部分ではテンポの上げ方を合わせたり、各楽器同士の要素の絡み方を揃えた上で最後に向かって雰囲気などで盛り上げていくことがとても難しかったです。曲の解釈についてもかなりこだわったポイントです。曲の全ての部分で作曲者の意図を正確読み取れているかはわかりません。しかし自分達なりに曲が何を示しているのかなどの答えをはっきりさせられているからこそ考えを広げることや演奏を改善できてきたと思います。このアンサンブルでの経験は音楽面だけに留まらず様々な場面で活用して頑張っていこうと思ひます。



れたこと、多くのお客様に自分たちの音楽を届けられたことに幸せを感じています。 私たち5人の力だけでは絶対にここまで来られませんでした。練習環境を用意してくださり熱心に指導をくださった先生方、いつも温かく見守ってくださった保護者の方々、たくさんの応援をしてくれた友達など様々な人々に支えられて、私たちは全国大会という大舞台で演奏をするという貴重な経験をさせていただくことが出来たことに、感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。



きました。僕はアンサンブルの活動を通して改めて仲間と協力して何かを成し遂げることの素晴らしさを知りました。 2年 前川 和也

全日本アンサンブルコンテストに出演して、初めは代表を頂けたことに嬉しい気持ちと、大きな舞台上自分が立つという事に信じられない気持ちでいっぱいでした。曲の冒頭のユニゾンが会場に響き渡った瞬間は忘れる事が出来ません。半年間気持ちを1つに過ごしてきたメンバー3人のおかげで毎日楽しく、真剣に練習に望むことが出来ました。 2年 佐々木 愛美

埼玉栄高等学校

埼玉栄高等学校打楽器8重奏は、3月19日アクティシティ浜松にて行われた第46回全日本アンサンブルコンテストに出場し、5年ぶり14回目の金賞を受賞することができました。振り返れば1月29日の西関東大会で金賞を受賞し全国大会への出場権をいただきましたが、喜びと同時に大きな不安を感じたことを思い出します。なぜならここ数年思うようなアンサンブルができず先輩方の努力が報われなかったのが、私たちがそれを越えるようなアンサンブルができるかどうかということが頭をよぎったからです。一昨年まではD.R.ギリングハムの作品を選曲し、ギリングハム独特の繊細かつ美しい音色で埼玉栄の打楽器アンサンブルをアピールしてきました。昨年からは路線を変え、打楽器アンサンブルとしての新たな音楽表現を目指して技術と表現力を磨いてきましたが、今回の「協奏曲」は数多くの特殊楽器を用いて表現されるJ.シュワントナーの持つ独特な世界観を表現することは容易ではありませんでした。しかしながら、代々の先輩方から伝わる練習方法は変えず、大切にしている「楽器を使わない練習」を地道に積み重ねるとともに、様々なテーマが入り混じる曲全体を通してビート感を崩さないリズム練習を取り入れながら少しずつ音楽を構築していきました。そして迎えた全国大会当日、いつもと違う慣れないホールでの演奏



はとても緊張しました。舞台上上がると3階まである客席にも圧倒されましたが、様々な思いを5分間に込めるとともに練習の成果を発揮するという強い気持ちで演奏することができました。たくさんの方々に支えられてここまで来られたことに感謝の気持ちでいっぱいです。アンサンブルを通して得た貴重な経験をこれからのバンドでの活動にも生かしていきたいと思います。

文教大学

中澤 那緒

ファゴット三重奏でアンサンブルコンテスト全国大会に出場できたのは珍しく、もしかしたら初めてなのではないかと思えます。

そんな珍しいファゴット三重奏でアンサンブルコンテストの全国大会に出場できて本当に嬉しいです。

ファゴットは経験者が揃うこともあまりなく、今回は経験者が3人揃うことができたので、アンサンブルコンテストの出場を決めました。

パートレーナーの先生からは、ファゴットアンサンブルは上の大会に抜けていく、不利になるということはよく言われました。

このことを踏まえて、選んだ曲は三楽章で構成された、聴いていて飽きない、綺麗で楽しい曲を選びました。音量変化、ハーモニー、音の粒のはっきりさをよく意識し、珍しいとだけ評価されないように努力してきました。

練習では、自分たちの演奏を録音し、その演奏の出来に落ち込むことが多く、正直全国大会に出場できると思うことはあまりなかったです。ですが、落ち込むことが多かったことで、焦る気持ち、もっと練習しなければという気持ちになりました。

また、部活中の練習時間にアンサンブルはやってはいけないという決まりがあったので、空きコマや部活後に練習を行いました。この気持ちや状況が努力することの糧になったのだと思います。

大会では、聴いている人に一番印象に残る、聴いていて楽しい、ずっと聴いていたいと思ってもらえる演奏がしたいと思っていました。

全国大会の結果は銅賞でしたが、聴いていた部員や、SNSからはお褒めの言葉が多く、嬉しかったです。「文教だけコンサートだった」という声もあり、私たちの目指していた印象に残る演奏が出来たと思います。



ソールリジェール吹奏楽団

越後 愛

3/19(日)アクティシティ浜松にて開催された第46回全日本アンサンブルコンテストにクラリネット四重奏で出場してまいりました。

昨年とは違うメンバーが集まり、「目標は高く!」と練習を開始したのが9月の終わりだったと記憶しています。

練習を始めたばかりの頃は果たして間に合うのだろうか…と不安がよぎることもありました。回数を重ねるごとに段々と形になっていく過程が楽しくもありました。

同じところを何度も繰り返し練習するような地味練習も今となっては良い思い出です。年代や経験値も異なるメンバーがお互い刺激を受け合い、切磋琢磨しながら成長できた半年間だったと思います。

とにかく練習から本番までずーっと楽しかった!というのがシンプルな感想です。

本番の演奏は完璧とは言えなかったかもしれませんが、それでもそれぞれが音楽に向き合うことのできた最高の5分間だったと思います。結果もとても嬉しいものでした。

それに加え、浜松グルメも大いに堪能し大満足の遠征となりました。



これからは、アンサンブルで培ったものを団の活動にも還元させていきたいと思っています。また、この場を借りて、応援してくださった方、いろいろな面でご尽力いただいた皆様へ感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。本当にありがとうございました。

アンサンブルリベルテ吹奏楽団

越川 博

今回は木管八重奏でリベルテとして全国大会へ11回目の出場で4回目の金賞を受賞する事ができました(2019年度中止を含まず)

木管八重奏はメンバーから2年前にも相談を受けて「委嘱を誰にしたら良いですか?」「阿部勇一さんはクラリネットアンサンブルはたくさん書いているが木管八重奏は書いていないので新鮮では?」という事で、2年前は「シーニックドライブ〜木管合奏のための〜」、今回は同じメンバーで2作目となる「アバンドーネ〜木管8重奏のための〜」で金賞を受賞しました。

2年前は金賞の演奏だと思えたのですが銀賞でしたので、メンバー達も今回はリベンジとして努力していました。

アンコンは支部独自ルールとして3チーム出場でしたが、昨年度全国大会で金賞を受賞した管打楽器八重奏が今年の県大会で3位となり西関東大会へ出場できない事態となりました。

参加団体増で新年度からは2チームに戻りますが、アンコンは西関東大会及び全国大



会への継続出場は吹コンに比べて大変困難です。

毎年、アンコンはメンバーが自主的に活動し、毎回自費でオリジナル作品を委嘱しています。その数は20作品近くになるのではないのでしょうか?

今後も、メンバーの技術アップの場としてアンサンブルに取り組んでいきたいと考えております。

「大会を振り返って」は、ご協力をいただいた団体のみ掲載しております。

最上位大会の結果一覧

第70回全日本吹奏楽コンクール

| | |
|----------------|----|
| さいたま市立土屋中学校 | 銀賞 |
| 朝霞市立朝霞第一中学校 | 銀賞 |
| 越谷市立大相模中学校 | 銀賞 |
| 埼玉栄高等学校 | 金賞 |
| 県立伊奈学園総合高等学校 | 銀賞 |
| 春日部共栄高等学校 | 銀賞 |
| 文教大学 | 金賞 |
| アンサンブルリベルテ吹奏楽団 | 金賞 |
| 伊奈学園OB吹奏楽団 | 金賞 |

第41回全日本小学生バンドフェスティバル

| | |
|--------------|----|
| さいたま市立大谷口小学校 | 銀賞 |
| さいたま市立上里小学校 | 銅賞 |

第46回全日本アンサンブルコンテスト

| | | |
|--------------|-----------|----|
| 朝霞市立朝霞第一中学校 | 打楽器六重奏 | 金賞 |
| 久喜市立鷲宮東中学校 | クラリネット五重奏 | 銀賞 |
| 県立伊奈学園総合高等学校 | クラリネット四重奏 | 銀賞 |
| 埼玉栄高等学校 | 打楽器八重奏 | 金賞 |

第22回東日本学校吹奏楽大会

| | |
|-------------|----|
| さいたま市立宮原小学校 | 銀賞 |
| さいたま市立芝原小学校 | 銀賞 |
| 志木市立志木中学校 | 金賞 |
| 深谷市立花園中学校 | 銀賞 |
| 鳩山町立鳩山中学校 | 金賞 |
| 桶川市立桶川中学校 | 金賞 |
| 立教新座高等学校 | 銀賞 |
| 県立大宮光陵高等学校 | 銅賞 |

第35回全日本マーチングコンテスト

| | |
|--------------|----|
| 久喜市立栗橋東中学校 | 銀賞 |
| 県立伊奈学園総合高等学校 | 銀賞 |
| 叡明高等学校 | 銀賞 |

| | | |
|----------------|-----------|----|
| 文教大学 | ファゴット三重奏 | 銅賞 |
| アンサンブルリベルテ吹奏楽団 | 木管八重奏 | 金賞 |
| ソールリジェール吹奏楽団 | クラリネット四重奏 | 金賞 |

埼玉県バンドクリニック2023を振り返って

2月12日(日)に埼玉バンドクリニック2023が開催されました。3年ぶりのバンドクリニックは従来の形をとり、オープニングコンサートでは中学校バンド3校、講座を埼玉栄高等学校によるパート練習について、2023年課題曲の演奏の2講座を行い、ファイナルコンサートで高等学校バンド2校という内容でした。

オープニングコンサート

1 さいたま市立土屋中学校 指揮 浅井 加奈子

中編成 出版:フォスターミュージック(2021) グレード:3.5

ゆめみぐさ、まもりて 八木澤 教司 作曲

2 志木市立志木中学校 指揮 齊藤 正子

小編成 出版:ブレーン(2022) グレード:2.5

プロローグ・マジェスティア 田村 修平 作曲

小編成 出版:ブレーン(2022) グレード:3.5

風になりたい 宮沢 和史 作曲 / 鹿野 草平 編曲

3 越谷市立大相模中学校 指揮 田中 秀和

大編成 出版:ブレーン(2022) グレード:3.5

Landscape ～草原の詩～ 福島 弘和 作曲

講座

講座Ⅰ「効果的な練習について」

日々の練習時間が限られる中、効果的な練習・合奏について奥先生の豊富な経験からアドバイスをいただきました。

モデルバンド 埼玉栄高等学校 講師 奥 章

3年ぶりということもあり、バンドクリニックを知らない、経験したことのない先生方も多く、参加人数があまり多くありませんでした。内容の充実、広報の仕方を検討していくことが課題となりました。

吹奏楽連盟 研修部 田中 秀和

ファイナルコンサート

1 県立和光国際高等学校 指揮 榊原 浩

中編成 出版:ブレーン(2022) グレード:3

七彩丹霞～東洋のグランドキャニオン
八木澤 教司 作曲

小編成 出版:ブレーン(2022) グレード:4

アシュラ 石川 健人 作曲

大編成 出版:ブレーン(2022) グレード:4

吹奏楽のためのエッセイⅢ 福島 弘和 作曲

2 叡明高等学校 指揮 中畑 裕太

中編成 出版:ブレーン(2022) グレード:4

ベルゼール・ブランシュ～美しき白い翼
松下 倫士 作曲

大編成 出版:フォスターミュージック(2022) グレード:3.5

斐伊川に流るるクシナダ姫の涙(2022年版)
樽屋 雅徳 作曲

講座Ⅱ「課題曲演奏」

2023年度全日本吹奏楽コンクール課題曲を紹介いたしました。

演奏 春日部共栄高等学校
埼玉栄高等学校 指揮 織戸 祥子
指揮 奥 章

埼玉県吹奏楽連盟総会
令和5年4月25日(水) プラザノース

令和4年度(2022)に
全日本吹奏楽コンクール / 全日本マーチングコンテスト
全日本小学生バンドフェスティバル / 東日本学校吹奏楽大会
に出場した指揮者(マーチングの場合は指揮者又は指導者1名)

令和4年度 優秀指揮者表彰

第22回東日本学校吹奏楽大会

| | | |
|------|--------|-------------|
| 小学校 | 関 真理江 | さいたま市立宮原小学校 |
| | 永平 真子 | さいたま市立芝原小学校 |
| 中学校 | 沖野谷 隆 | 深谷市立花園中学校 |
| | 齋藤 正子 | 志木市立志木中学校 |
| | 関口 弥生 | 鳩山町立鳩山中学校 |
| | 福田 恵美子 | 桶川市立桶川中学校 |
| 高等学校 | 鳥越 崇裕 | 立教新座高等学校 |
| | 鷲尾 ひとみ | 県立大宮光陵高等学校 |

第70回全日本吹奏楽コンクール

| | | |
|------|--------|----------------|
| 中学校 | 浅井 加奈子 | さいたま市立土屋中学校 |
| | 田中 秀和 | 越谷市立大相模中学校 |
| | 外崎 三吉 | 朝霞市立朝霞第一中学校 |
| 高等学校 | 宇畑 知樹 | 県立伊奈学園総合高等学校 |
| | 奥 章 | 埼玉栄高等学校 |
| | 織戸 祥子 | 春日部共栄高等学校 |
| 大学 | 佐川 聖二 | 文教大学 |
| 一般 | 宇畑 知樹 | 伊奈学園OB吹奏楽団 |
| | 日景 貴文 | アンサンブルリベルテ吹奏楽団 |

第41回全日本小学生バンドフェスティバル

| | | |
|-----|-------|--------------|
| 小学校 | 石井 尚文 | さいたま市立上里小学校 |
| | 松村 咲 | さいたま市立大谷口小学校 |

第35回全日本マーチングコンテスト

| | | |
|------|-------|--------------|
| 中学校 | 山下 珠枝 | 久喜市立栗橋東中学校 |
| 高等学校 | 宇畑 知樹 | 県立伊奈学園総合高等学校 |
| | 中畑 裕太 | 叡明高等学校 |

